

大和合金が中期計画

15年度売上高3割増

航空機向け拡販

銅合金鍛造メーカーの大和合金（本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏）は15年度までの中期経営計画

は5〜10%を安定的に確保したい考えだ。自動車や鉄鋼関連市場向けの溶接電極などは現

ランディングギア向けの素材を製造。アルミ青銅の合金を鍛造や鍛造で円筒形に加工して出荷している。足元の

5年前に朝霞伸管から買収した朝霞工場の歩留まりや稼働率の向上にも注力。合金技術に知見がある学識経験者や大手伸銅メーカーOBの技術指導を受けて改善活動を加速させる。



萩野 社長

行の販売水準を維持。航空機向けの出荷を拡大して成長を狙う。売上目標は同社として最高値となる。今後注力する航空機関連市場では足回りの

これまで向け先は国内の大手航空会社の整備部品用が中心だったが、ここ数年は中国など海外で実績を積んでいる。昨年には航空機関連の品質規格で米国やヨーロッパの規格と

また、これまで海外シフトが進んできた金型などの精密鍛造では、「日本の高品位な技術へのニーズが今後高まる」（萩野社長）と見て引き続き注力する方針だ。

